

歴教協広島ニュース 2007 年 2 月 7 日

# 歴教協広島ニュース

HP もみてね

## 第 9 回例会のお知らせ

日時 2 月 23 日 (金) 18 時 30 分から

^ ^  
( )

場所 いつもの

内容 1 学年総合「ホテル」学習～科学的思考を育てる総合学習～  
( 中 )

「この総合、ちょっとヒットかな」と語る、学校外の専門家とも連携した興味深い総合的な学習の実践です。子どもたちにとって「意味のある」教育課程を活発に語り合うことが、今必要とされるときでしょう。

基晴さん( 中 )から画用紙教材新作の紹介があります！

## 例会報告

1 月 27 日 (土) 大和ミュージアム

いよいよ大和ミュージアムにやってきた！という感じであった。駐車場に着くと空中に「鉄のクジラ」自衛隊の潜水艦がどかーんと浮いている。ほとんど、軍事施設である。(私の感じ方です、念のため)。それはそれとして、呉の戦災を記録する会の朝倉邦夫さんから話を聞き、ミュージアムの学芸員の方から熱意あふれる取り組みを聞き、大和ミュージアムからさまざまな課題を引き出せた「楽しい」例会であった。

ミュージアムの内容はともかく、教育行政が各小中学校を体験学習へ「強要」したり、『呉の歴史絵本』を作成し全小中学校に配布、指導案も作り使用を推進している

法的、行政的には博物館ではない。呉市の商工観光部の所管であって、観光用展示施設と考えられる。

技術の博物館ということで「技術と平和」をテーマとする。しかし、技術の発展が呉の町の発展、国家の発展であったという視点しかない。戸高館長は「日本の職人」を讃え「和魂洋才」のすばらしさを言う。朝倉さんはそれを、歴史を総合的に見る力がないと指摘された。自由や民主主義の発展と科学・技術の発展が関連しているという視点の重要性を指摘された。

ただ見て遊んでるだけでは戦艦大和の「すごさ」「かっこよさ」だけが心に残るだろう。ミュージアムを教材化し、事前指導や展示解説、事後指導を計画的に行うことが必要とされる。(今の学校現場でそれが可能か？ 同時に教員自身が自衛隊などについて価値観が変わってきている。)

## 情報コーナー & 授業実践コーナー

「あなたは、生きる希望を持っていますか。」から始まった「10代がつくる平和新聞 - ひろしま国 -」(中国新聞 2007年1月29日)創刊号1ページを飾ったのは「"ねがい"ぼくらの国歌はエンドレス」、すてきな新聞です。そして 基晴さんのにこやかな写真とインタビューがありました。基晴さんはその中で「(歌の実践の背景に)世の中の流れに安易に乗っかるのではなく、自分の価値観をしっかりと持って考えてほしい(という思いがあった)」と語っています。これは中学生に話しているのか、実は、教員や世のおとなたちに訴えているのか...

教育基本法が変えられました。(47年教育基本法に対して、06年教育基本法と呼ぶ)。歴教協広島支部というサークルのあり方も必然的に変わらざるを得ないのかなと感じています。まじめに楽しく「世の中の流れ」ときちんと向き合って、そうやってやっていく小さな実践が実はとても大切だったりして。

世の中には様々な登場人物がいます。いま現場は「2学期制導入」にしる「教育特区・ひろしま型カリキュラム」にしる「学校選択制」にしる、登場人物がいまの学校現場と管理職と教育委員会の三者しかいません。でもそれは強そうに見えてもまぼろしです。登場人物として子どもたちは存在しているのでしょうか。「自分の価値観をしっかりと」もった登場人物を邪魔だと考えるか、素敵だと考えるかが問われると思うんですよ。

ひろしま国ホームページは <http://www.chugoku-np.co.jp/hiroshima-koku>

基晴さんがインタビューの中で「(ねがいの歌の5番目の歌詞づくりについて)地元広島からの歌詞が少ないので、ぜひ作ってほしい」とグチって(?)いるのでよろしく。

近頃「2学期制導入」に対して世の中の関心がそれなりに高まってきているようです。いっぽう学校現場は「すでに2学期制導入は過去の問題だ」という時点に来ているようです。学校によっては説明会で立ち往生というところもあるようですが、関心が高まってきたのも、一定、市民・保護者の教育運動の強まりがあります。2月のこの時期になってあまり話題になるのもきついです。改めて、「市民・保護者と子どもたちの教育を創る」って何をどうすることなんだと、考えるチャンスなんだろうと思います。

(別紙を見てください。各学校に届くと思います。)